

【山鹿市】校務 DX 計画

1 「校務 DX チェックリスト自己点検結果」における課題等について

本市の「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」による令和 7 年度時点での結果（半分以上がデジタル化）は以下のとおりである。特に全国平均を下回る「教職員と保護者間の連絡のデジタル化」、「FAX の原則廃止」及び「押印の原則廃止」についてさらなるデジタル化に取り組んでいく必要がある。

市区町村名		山鹿市	全国
教職員と保護者間の 連絡のデジタル化	欠席・遅刻・早退連絡	100%	84%
	お便りの配信	54%	62%
	調査・アンケートの実施	77%	70%
学校内の連絡のデジタル化	校内での資料共有	85%	83%
	校内での情報共有	100%	82%
	調査・アンケートの実施	92%	77%
教職員と児童生徒間の連絡等の デジタル化	各種連絡事項の配信	38%	35%
	調査・アンケートの実施	85%	63%
その他	FAX の原則廃止	23%	28%
	押印の原則廃止	0%	9%

[校務 DX の取組に関するダッシュボード | デジタル庁](#)より

2. 今後について

（1）教職員と保護者間の連絡のデジタル化

本市では教職員と保護者間の連絡ツールを導入し、デジタル化を図っているが、学校により活用に差が生じている現状である。連絡ツールの活用に関する研究会の実施や連絡アプリの調査研究を行っていき、教職員の負担軽減及びペーパーレス化に努めていく。

（2）次世代校務システムの導入に向けた検討

本市の教育系ネットワーク基盤は、従来のネットワーク分離の考え方に基づいて構築され、重要性分類に対応した構成となっている。国が示す「校務系と学習系のネットワーク統合」、「校務システムのクラウド化」といった方向性を踏まえ、校務支援システムや各システムの更新時期に合わせ、調査研究を進める。

（3）FAX 及び押印の見直し

令和 5 年 1 2 月に文部科学省から発出された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部のや

り取りで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務 DX を大きく阻害していることが指摘されている。

本市においては、提出文書の鑑文不要化を推進するとともに、学校と教育委員会間のサーバネットワークを活用した電子提出を推進することで、紙に頼らない文書提出を求めている。

しかしながら、早急な情報共有が必要な案件等の際には、FAX による提出が見受けられるため、FAX 及び押印の原則廃止に向けて継続的な働きかけを行う。